

王子公園 再整備基本方針（素案）

1. 背景

(1) 王子公園の位置と歴史

王子公園は、本市の都心である三宮・元町の東約3kmに位置しており、駅に近く利便性の高い貴重な空間です。この一帯はかつて「原田の森」と呼ばれ、明治中頃まで田畑が広がっていました。

1889年（明治22年）に創立された関西学院を皮切りに、松蔭女子学院や神戸高等商業学校（現：神戸大学）が開校されました。また、1919年（大正8年）に市電上筒井線の終点「筒井駅」が開業し、翌年には阪神急行電鉄「上筒井駅」が開業されました。

1950年（昭和25年）には王子公園（19.2ha）が供用され、戦災復興と発展のため神戸博が開催されました。翌年の1951年には、その跡地に諏訪山動物園を継承するかたちで、現在の王子動物園が開園し、1956年の第11回国民体育大会の開催にあわせてスポーツ施設が次々と整備されました。このように、王子公園一帯は、近代から高度成長期の神戸の発展に先導的な役割を果たしてきた地域です。

また、王子公園は1995年（平成7年）の阪神・淡路大震災において、災害対応機能として自衛隊や消防応援を受け入れ、物資拠点機能、住民避難機能などを備えた広域防災拠点としても大きな役割を果たしました。

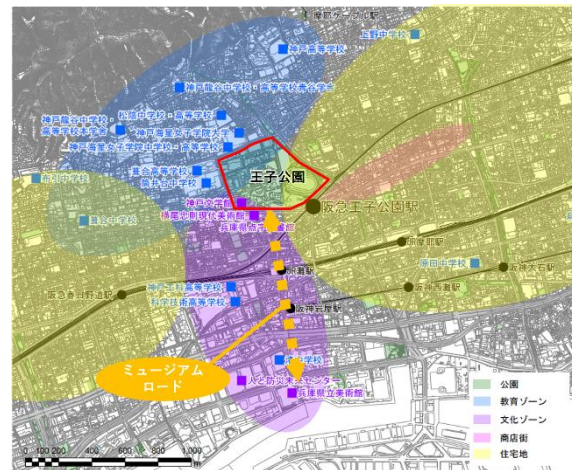
(2) 王子公園周辺の現況

阪急王子公園駅周辺は六甲山系の美しい山並みを背景とした阪神間を代表する景観が広がり、良好な住環境が形成されています。

また、文化施設や教育施設、スポーツ施設が集積する学術・文化のまちとして発展を遂げてきました。南北を貫く「ミュージアムロード」には、多くの芸術作品が設置されているほか、阪神・淡路大震災からの「文化の復興」シンボルとして、2002年に建設された兵庫県立美術館や2012年に王子公園前に開館した横尾忠則美術館などもあり、多くの方々が市内外から訪れる文教エリアとして魅力的な地域となっています。



【1915年（大正4年）頃の原田の森】



【土地利用状況図】

(3) 王子公園の施設概要及び課題



①体育館
面積：約 1.0 ha
設置：1978 年

⑥テニスコート
面積：約 1.1 ha
設置：1956 年

⑪プール
面積：約 1.0 ha
設置：1960 年

⑭駐車場

⑫王子動物園
面積：約 8.1 ha
設置：1951 年

⑮王子スタジアム
面積：約 2.6 ha
設置：1956 年

その他施設	②	③	④	⑤	⑦
	ちびっこ広場	弓道場	わんぱく広場	北獣舎(動物園)	旧ハンター住宅
	⑧	⑨	⑩	⑬	⑯
	補助競技場	相撲場	神戸登山研修所	神戸文学館	原田児童館

(課題)

■施設の老朽化・陳腐化

- ・ 供用後 70 年が経過した施設もあるなど、老朽化が顕著である。
- ・ 公園内にベンチや健康遊具などが不足しており、くつろげる空間が少ない。
- ・ 動物園の展示方法が陳腐化している。

■交通至便な駅前の立地特性を活かせていない

- ・ 駅に近い南東部のオープンスペースの大部分が駐車場で占められている。
- ・ 日本陸上競技連盟の公認を除外された陸上トラックや利用期間に限られる屋外プールが存在する。

2. 再整備の意義

神戸が目指す都市像を実現するために策定した『神戸 2025 ビジョン (令和 3 年 4 月)』では、「海と山が育むグローバル貢献都市」を新たなテーマとし、神戸が有する豊かな自然環境や開港以来育まれてきた国際性、多様性といった強みを磨き、それらを活かしたまちづくりを進めていきます。また、まちの質・くらしの質を一層高めることで、住み心地の良いまちを実現し、市民一人ひとりが心豊かに幸せを実感できる生活を享受するとともに、将来を担う若者が輝き、活躍できる社会の形成を目指しています。

王子公園周辺は、山から海まで繋がる美しい景観が広がり、歴史や文化が薫るポテンシャルが極めて高い地域であり、このたび新たに大学を誘致することで阪神間を代表する学術・文化の拠点を形成し、我が国の成長・発展を担う人材の育成やグローバル貢献都市の実現を牽引していきます。

あわせて、王子動物園のリニューアルやスポーツ施設の再編・機能強化を図るなど、交通至便な駅前の立地特性を活かしながら集客力や魅力を高め、周辺一帯の活性化とブランド力の向上を推進していきます。

3. 再整備コンセプトと基本的な方向性

(1) 再整備コンセプト

『グローバル貢献都市を先導する学術・文化・スポーツ拠点の形成』

(2) 基本的な方向性

① 学術・文化拠点のシンボルの創出

- ・神戸の国際性や多様性を高める特色のある大学を誘致する。
- ・六甲山の山並みと調和した良好な景観を維持・創出する。

② 抜本的な公園のリニューアルによる集客力や魅力の向上

- ・交通至便な駅前の立地特性を活かした魅力ある都市型動物園へリニューアルする。
- ・関西アメリカンフットボールの聖地として新スタジアムを整備し、広域からの集客力を高めるスポーツ拠点とする。
- ・公園のエントランスに芝生広場などの居心地が良く、憩い・くつろげる空間を整備する。

③ 広域防災拠点としての機能強化

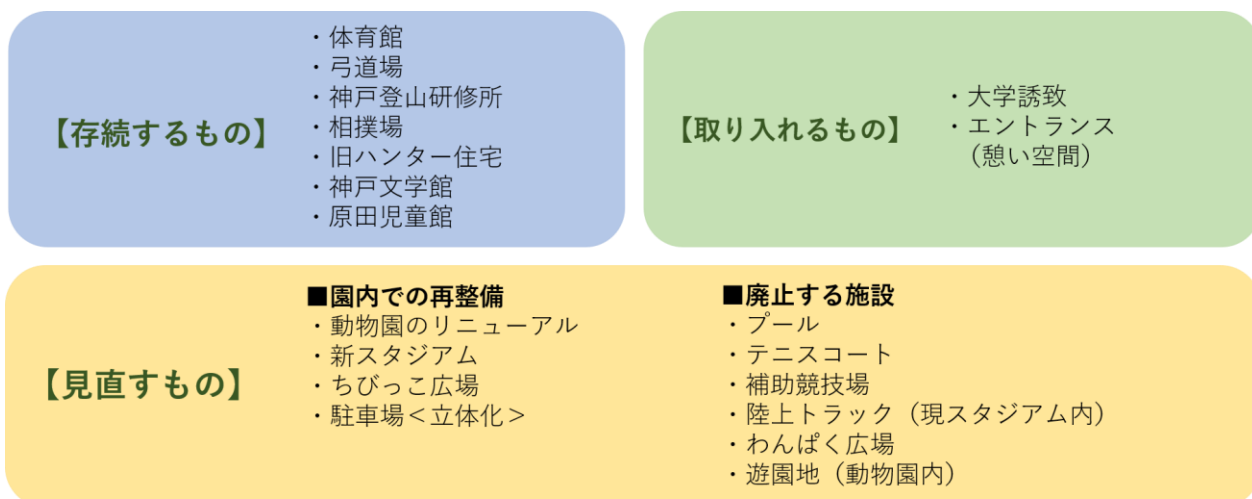
- ・新スタジアムやエントランスゾーンなどを活用した、災害時の物資の集積や救援活動など防災機能の強化を図る。

(3) ゾーニング

ゾーニング及びその考え方を以下のとおり示します。

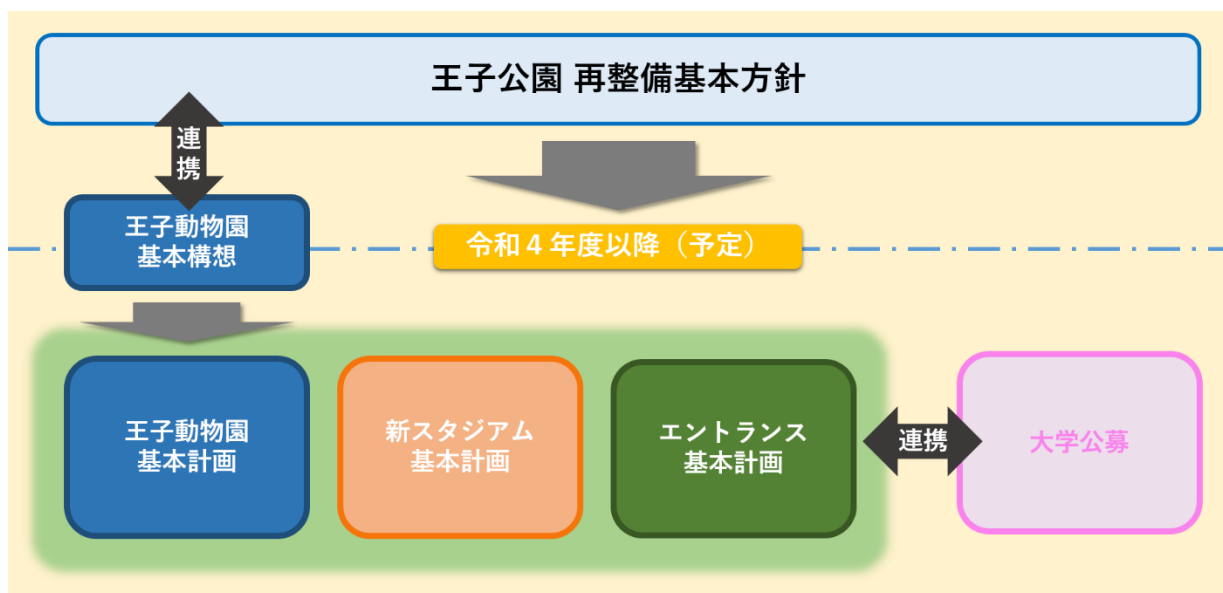


(参考) 再整備による各施設の扱い



これらにより廃止・縮小する機能については、出来る限り従前の機能を補完できるよう、今後検討を行います。
また、存続するものについても、必要な見直しを検討していきます。

4. 今後の進め方



「王子公園再整備基本方針 (素案)」は、再整備に向けたゾーニングなどを示すものであり、具体的な各施設の整備内容やデザイン等については、これをもとに、今後、動物園や新スタジアム、エントランスの基本計画の策定を進めるなかで検討を深めていきます。